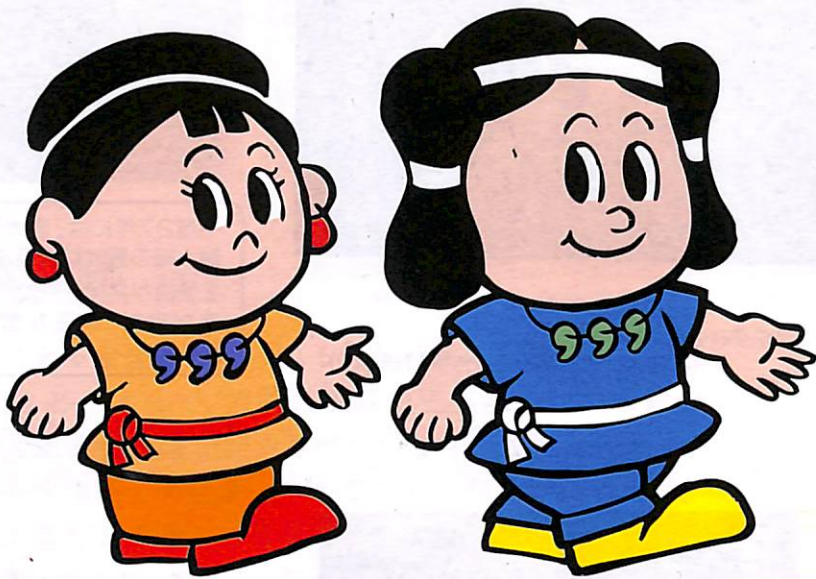
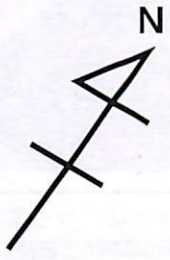


須玖岡本遺跡案内 MAP



春日市マスコットキャラクター
あすかちゃん・かすがくん



奴国王墓
(イメージ)

.....
おすすめ遺跡ルート
(歩いて40分でまわれるよ。)



博多湾

志賀島

春日北小学校

⑤ 王族墓の跡






⑥ 青銅器工房の跡

④ 奴国王墓の跡

青銅器工房 (イメージ)

③ 熊野神社

岡本交差点

-  史跡説明板の位置
-  奴国の丘歴史資料館までの案内板
-  川
-  ⇒  路上にこのマークがあります。マークを目印にまわってみてね。

※須玖岡本遺跡は住宅街の中にあります。見学の際、私有地に入らないようご注意ください。

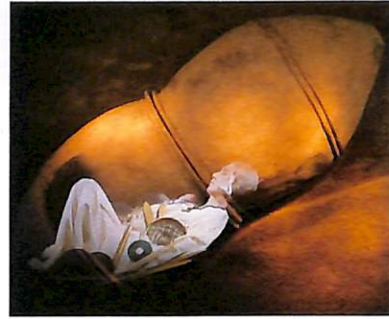
《問い合わせ先》
春日市奴国の丘歴史資料館 TEL : 092-501-1144

奴国の丘から歩く須玖岡本遺跡の見どころ

奴国の丘歴史資料館

弥生の里、春日市は遺跡の宝庫。なかでも国指定史跡「須玖岡本遺跡」に代表される弥生時代の遺跡の数の多さと集中する密度は全国トップクラスです。須玖岡本遺跡を北に置き、南北約2km、東西約1kmの範囲には、50か所以上の同時代の遺跡が密集し、須玖遺跡群と呼ばれています。

資料館では、弥生時代の遺跡の発掘調査で出土した貴重な資料を中心に、展示しています。



奴国王墓（復元）

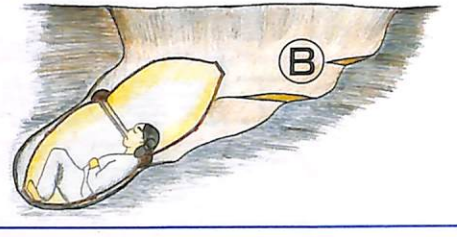
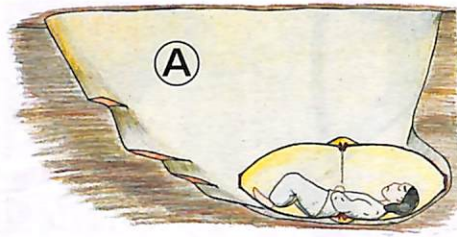


銅剣を納めた王族墓（岡本地区1次）

須玖岡本遺跡

春日市の北部にある全国的に知られる弥生時代の遺跡です。これまでの発掘調査などによって、奴国の王墓や王族墓そして一般の人々の集団墓地である甕棺墓が発見されています。また、青銅器を生産した工房跡も全国のどの遺跡よりも集中して発見されており、弥生時代の日本の首都とも言える重要な遺跡です。

遺跡全体の面積は約7.4haあり、一般の人々の集団墓と、王墓や王族墓の一部が国指定史跡として現地の地下に保存されています。

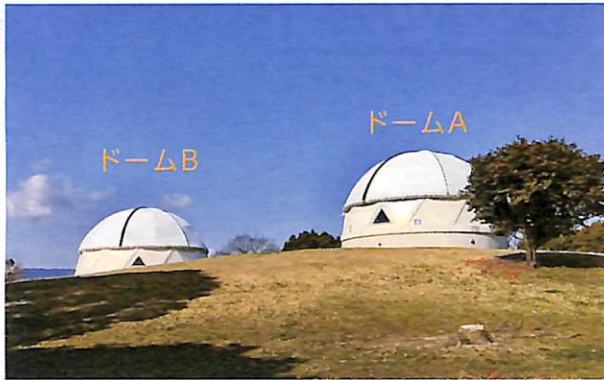


④は中期中ごろ（約2千年前）より古い甕棺墓、⑤は中期後半より後の甕棺墓だよ。時期によって、甕棺の埋葬方法が違うんだ。

① 奴国の丘 覆屋（ドーム A・B）

資料館横の歴史公園の丘の辺りは、国指定史跡「須玖岡本遺跡」の一部です。ここには100基以上の甕棺墓が、そっくり地下に保存されています。二つのドームでは、発掘調査された時の状態の甕棺墓を見ることができます。

この丘を北側に下った一帯には、ほぼ同時期の奴国王や王族の墓などが住宅地の地下に残っています。



甕棺墓の発掘状況（ドームA）

② 王墓の上石

明治32年（1899年）に発見された奴国の王墓の上に置かれていた花崗岩の巨石です。長さ3.3m、幅1.8m、厚さ0.3mで重さは4tあります。

もともとは、ここから北西に約200m丘を下った王墓跡の地点にあったものを歴史公園に移し、保存展示しています。



「史跡 須玖岡本遺跡」の史跡標柱を背にして熊野神社に行こう！

③ 熊野神社

神社の由来は、古い記録によると、天文年間（約470年前）に熊野権現をこの地に祀ったことが始まりとされています。

神社には、江戸時代に「皇后峰」と呼ばれる地で掘り起こされたと言われる銅矛の鋳型が御神宝として残されています。この鋳型は、現在国の重要文化財に指定されています。



銅矛の鋳型（国指定重要文化財）



熊野神社の大きな鳥居を通過して王墓跡へ行くよ。鳥居の奥に見える水田の辺りに青銅器の工房跡が残っているよ。

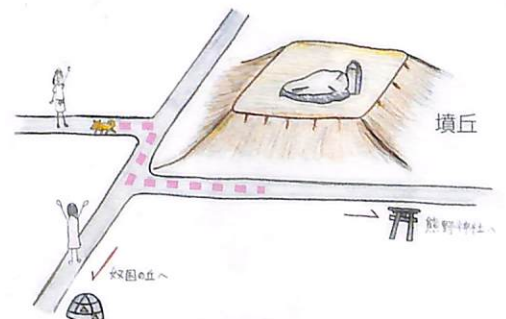
④ 奴国王墓の跡

明治32年（1899年）、同地で家を建てる際に、花崗岩の大きな上石を取り除くと、その下から単独で1基の甕棺墓があらわれ、中から多数の青銅製品が発見されました。発見後の追跡調査で、前漢時代の銅鏡30面前後、銅剣・銅矛・銅戈が10本ほど、ガラスの勾玉・管玉などが納めてあったことがわかりました。

墓の大きさや納められた宝飾品が他と比べても極めて貴重なものだったことから、奴国の王の墓と考えられています。



須玖岡本遺跡出土の青銅武器類（東京国立博物館所蔵 九州国立博物館画像提供）



王墓跡の南側の路がクランクになっているのは、この一角が昔から高くなっていたからだろう。王の墓が墳丘をもっていたのかもしれないね。



銅戈



直径20cmを超える銅鏡（復元品）



弥生銀座、発掘調査の歴史

奴国王の墓の発見ののち、須玖岡本遺跡は考古学界の注目の的となり、数々の研究者により、発掘調査と研究が行なわれました。昭和4年(1929年)には京都帝国大学による初めての本格的な発掘調査が行われ、甕棺墓から銅剣が発見されています。昭和37年(1962年)には九州大学と福岡県教育委員会の合同調査が王墓のまわりで行われ、甕棺墓などから銅剣、銅戈、ガラス勾玉などが発見されています。

その後の春日市教育委員会などによる発掘調査は計40か所以上になり、貴重な青銅製品やガラス製品が多数発見されています。

日本に数ある弥生時代の遺跡のある土地で、須玖岡本遺跡のある一帯が「弥生銀座」と言われてきた理由です。



昭和4年の発掘時のようす
 (『筑前須玖史前遺跡の研究』
 京都帝国大学考古学報告第11冊より)



平成27年には、京大B地点の下から国内最大級の墓穴が発見され、甕棺から銅剣と把頭飾が発見されたんだ！
 まだまだ、貴重な国の宝が眠っているかも？

⑤ 王族墓の跡

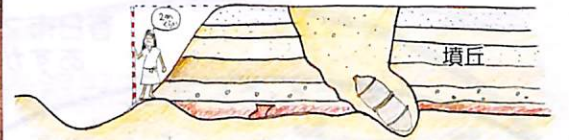
王墓跡に隣接する北西側には、京都帝国大学が調査したB地点があり、10基の甕棺墓が発掘され、そのうちの1基からは銅剣が発見されています。

その後の近辺での発掘調査でも、甕棺墓のなかに銅剣などが納められている比率が高いことから、王墓のそばに王族の墓が集中していることが考えられています。

平成2年(1990年)の発掘調査では、須玖岡本遺跡ではじめて墳丘墓が確認され、鉄剣などを納めた甕棺墓が発見されました。



平成2年に確認された墳丘墓の中の甕棺



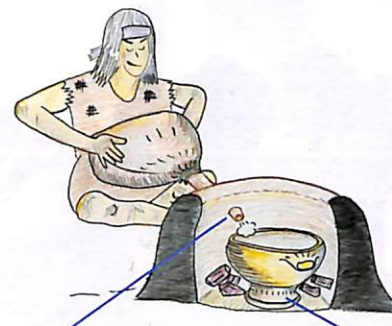
甕棺を納めた穴の壁を見ると、違う色の土がシマ状になっているね。墳丘を積みあげた証拠だよ！

⑥ 青銅器工房の跡

須玖岡本遺跡の北端にあるこの水田一帯は、これまでの発掘調査で青銅器などを製作した工房の跡が集中的に見つかっています。当時の最先端の工業技術である青銅器づくりは石の表面を細かく彫り込んで加工した鑄型を用いました。

矛、剣、戈、鏡、矢じりなど多種多様な製品の外型、製品の中空部分を作り出すための土製の中子(中型)、そして青銅を高温で溶かすための器であるるつぼなど、ここで鑄造を行った証拠の品々が多量に出土しています。

九州北部ではこれまでに400点以上の石製の鑄型の破片が発見されています。そのうちの半数は春日市の須玖遺跡群から、さらにそのうちの約3分の1はここから発見されています。須玖岡本遺跡が古代のテクノポリスと言われる理由です。



ふいごの羽口

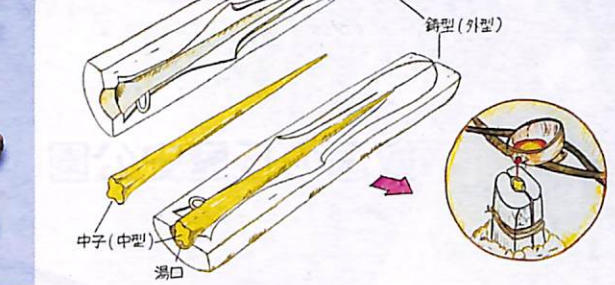
るつぼ



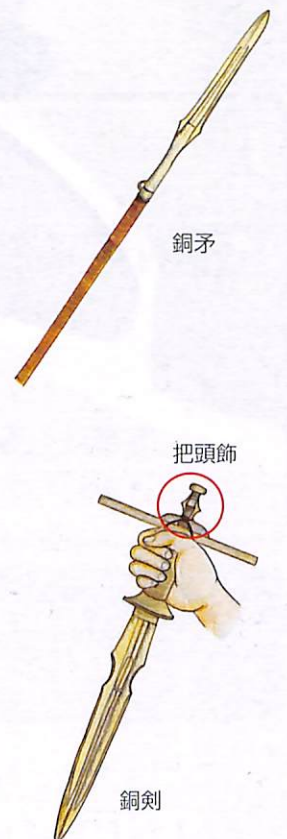
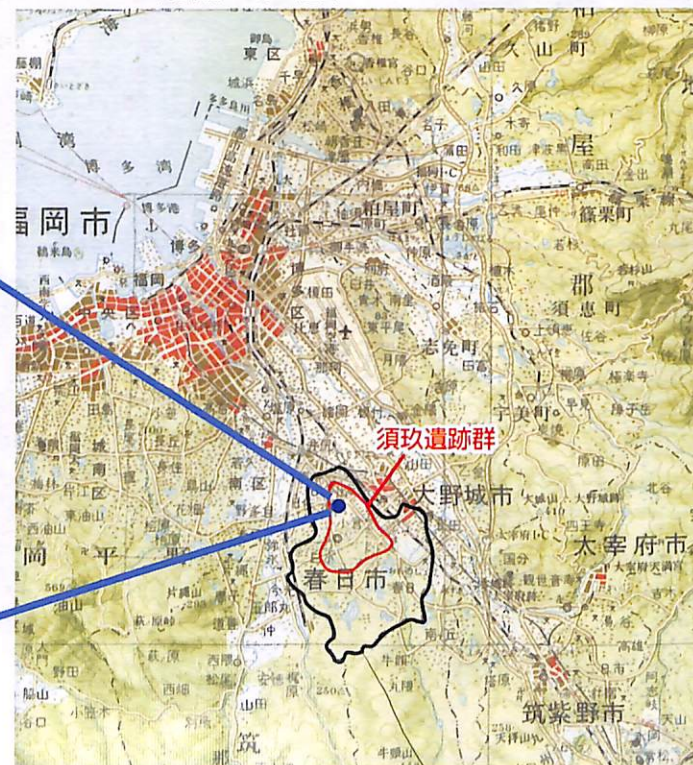
水田の下で確認された青銅器づくりの工房跡



工房跡から発見された青銅器づくりの道具



空から見た須玖岡本遺跡



⇒この順番で遺跡をまわってみてね!